

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 5 巻第 6 号

第 6 週(2月 7日 ~ 2月 13日)

発行年月日:平成17年(2005年) 2月 18日

発行:滋賀県立衛生環境センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1)全数報告の感染症(1類~5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (6週)	累積報告数		平成16年報告数	
			滋賀 (6週)	全国 (6週)	滋賀	全国 ^(*1)
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	1	53	9	576
	腸チフス	0	0	5	2	66
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	55	21	3,640
4類感染症	E型肝炎 ^(*2)	0	0	4	1	34
	オウム病	0	0	8	1	39
	デング熱	0	0	3	2	45
	マラリア	0	0	7	2	73
5類感染症	アメーバ赤痢	0	0	76	8	580
	ウイルス性肝炎	0	0	35	5	299
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	11	1	53
	後天性免疫不全症候群	0	0	112	6	1,119
	ジアルジア症	0	0	5	2	85
	梅毒	0	0	54	4	516
	破傷風	0	0	6	2	100
急性脳炎 ^(*2)	0	0	9	1	162	

*1:平成16年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

*2:平成17年第4週現在の報告数です(iDWR掲載の報告数を参考にしています)。

2)定点把握の対象となる5類感染症

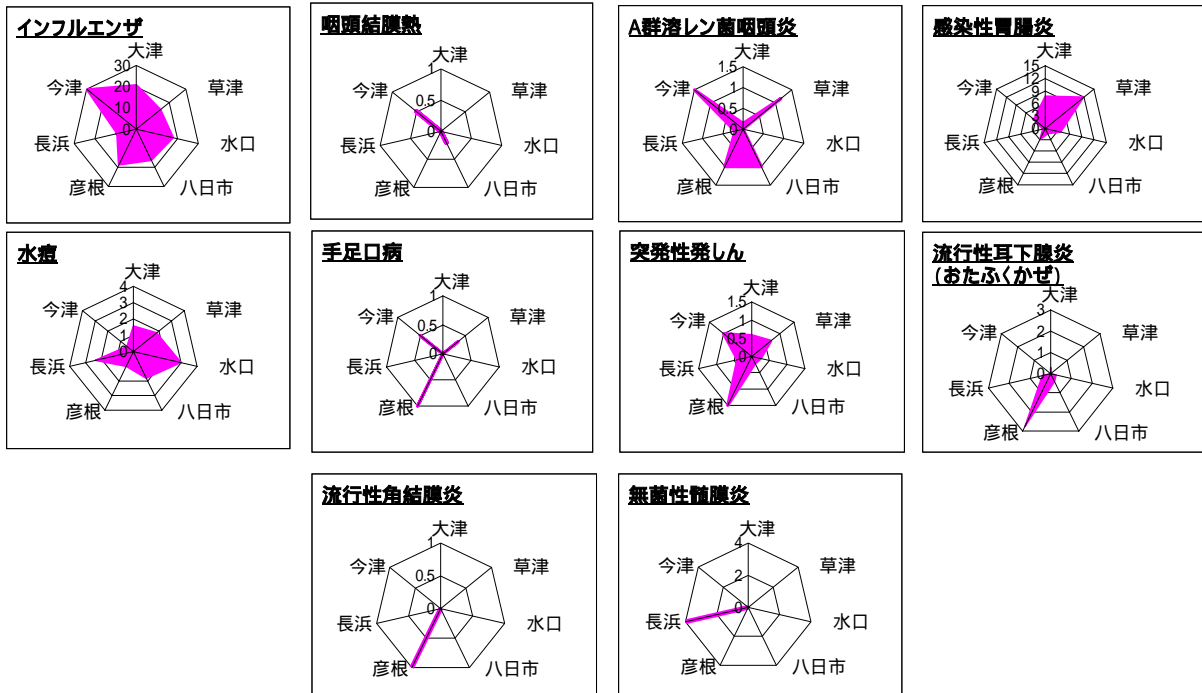
(1)疾病別・週別発生状況(第1~6週、1/3~2/13)

疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)										
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	週				
	(1/3~)	(1/10~)	(1/17~)	(1/24~)	(1/31~)	(2/7~)	2	3	4	5	6
インフルエンザ	0.18	0.25	0.76	2.27	5.61	17.25					
RSウイルス感染症	0	0.03	0	0	0	0					
咽頭結膜熱	0.06	0	0.03	0.15	0.12	0.06					
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.27	0.33	0.48	0.45	0.52	0.64					
感染性胃腸炎	4.76	6.24	6.21	6.12	6.39	5.12					
水痘	2.52	2.00	1.79	2.39	1.61	1.82					
手足口病	0.48	0.21	0.27	0.45	0.12	0.21					
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0.03	0.03	0.03	0	0					
突発性発しん	0.36	0.45	0.58	0.45	0.58	0.61					
百日咳	0	0	0	0.03	0.03	0					
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0					
ヘルパンギーナ	0.06	0	0	0	0	0					
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0					
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.64	1.24	0.85	1.39	1.39	0.55					
急性出血性結膜炎	0	0	0	0.14	0	0					
流行性角結膜炎	0.14	0.14	0	0.14	0.43	0.14					
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0					
無菌性髄膜炎	0.14	0	0.43	0.14	0	0.57					
マイコプラズマ肺炎	0.43	0.29	0.43	0	0	0					
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0					
成人麻しん	0	0	0	0	0	0					

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第6週、2/7~2/13)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津	
インフルエンザ	17.25	20.55	14.30	17.43	16.00	18.29	9.00	29.33	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	0.06	0	0	0	0.20	0	0	0.50	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.64	0.14	1.17	0	1.00	1.00	0.20	1.50	
感染性胃腸炎	5.12	7.71	11.83	3.75	1.40	3.00	0.60	3.50	
水痘	1.82	1.57	1.83	3.00	1.80	1.00	2.40	0.50	
手足口病	0.21	0	0.33	0	0	1.00	0	0.50	
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0	0	0	0	0	0	0	
突発性発しん	0.61	0.57	0.67	0.25	0.20	1.50	0.40	1.00	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0	
麻疹(成人麻疹を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.55	0.29	0	0.25	0.40	2.75	0.40	0	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.14	0	0	0	0	1.00	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0.57	0	0	0	0	0	4.00	0	
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況:

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。インフルエンザの県内における発生は長浜でやや少なくなっていますが県内全域に拡大しており、すべての保健所で先週より増加しています。水痘については長浜で先週よりかなり多く発生しています。突発性発しんについては彦根でやや多くなっています。また、無菌性髄膜炎については長浜からの報告が多くなっています。

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といえます。

* 感染症法: 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

* 疾患により定点数は異なります。

3)今週のトピックス

県内6保健所管内にインフルエンザの流行発生注意報 流行性耳下腺炎の発生は減少

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況としては、先週(1月31日～2月6日)の報告数より倍増しています。特に、インフルエンザで急増し無菌性髄膜炎の報告も多くなっています。感染性胃腸炎、流行性耳下腺炎等は減少しています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフを参照)。

インフルエンザについては、先週の定点当たり患者数5.61より激増し17.25となっています。大津、草津、水口、八日市、彦根および今津保健所管内に「感染症の流行の警報・注意報システム(注)」による**流行発生注意報**が出されていますので今後のインフルエンザの発生状況に注意する必要があります。

(注)感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム

感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム(厚生労働科学研究事業)では過去5年間の患者発生状況をもとに疾患ごとに定点当たり患者数の基準値を設定しています。

流行発生警報----インフルエンザの場合、定点当たり患者数が30人以上という基準値を超えた時に出されます。流行発生警報という表現により大きな流行が発生した、または発生している可能性があるという情報を提供しています。

流行発生注意報----インフルエンザの場合、定点当たり患者数が10人以上という基準値を超えた時に出されます。流行発生注意報という表現により今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性がある、または現在も流行が継続している可能性があるという情報を提供しています。

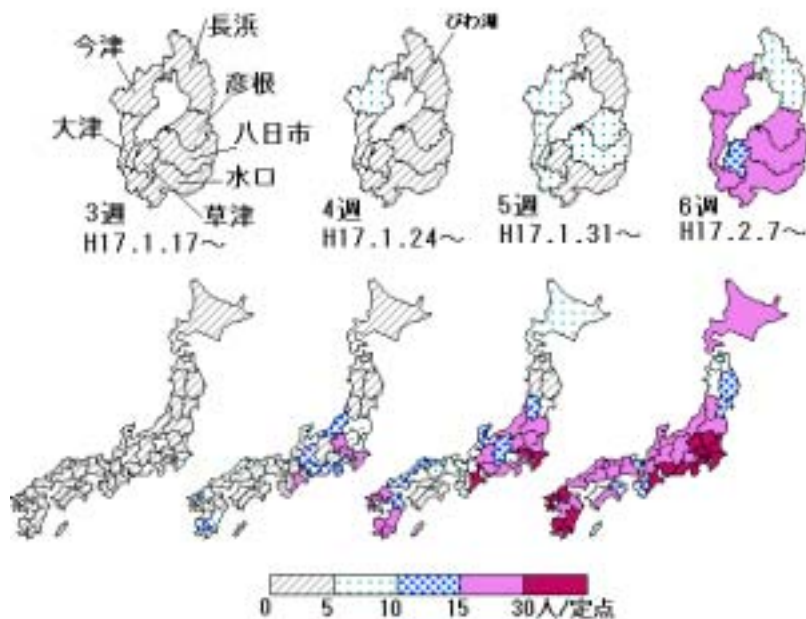
* 詳細については警報・注意報発生システムとは(国立感染症研究所感染症情報センター)参照

<http://idsc.nih.gov/jp/disease/influenza/inf-keiho/guide04.html>

感染性胃腸炎については、先週の定点当たり患者数6.39より減少し5.12となっています。大津および今津保健所管内においては先週よりかなり減少していますが、草津保健所管内では11.83と多くなっています。

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)については、先週の定点当たり患者数1.39よりかなり減少し0.55となっていますが、彦根保健所管内では2.75とやや多くなっています。

インフルエンザの週別発生状況について(平成17年第3週～第6週、H17.1.17～H17.2.13)



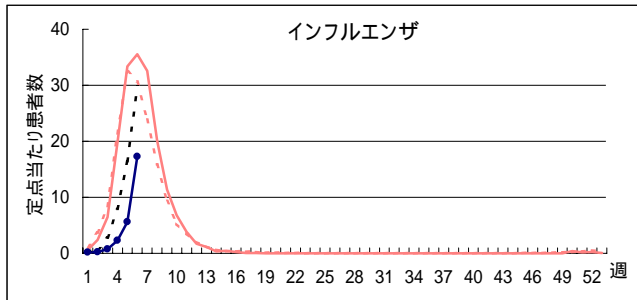
平成17年第3～第6週の発生状況についてみると、第3週から第5週にかけて次第に増加していましたが、第6週には県内の各保健所管内で急増しています。

また、発生は県内全域に拡大しており、流行の警報・注意報システムにおいても長浜保健所管内をのぞき流行発生注意報(定点当たり患者数10人以上)が出されています。

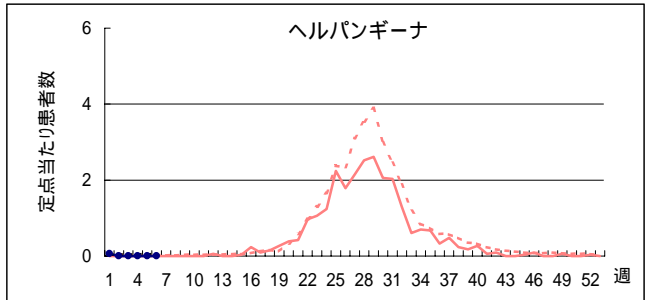
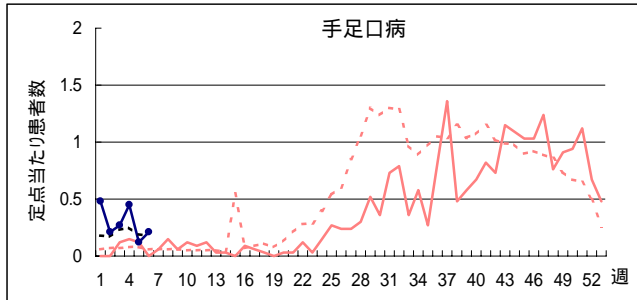
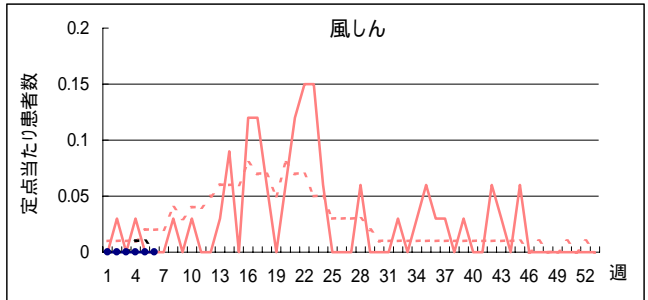
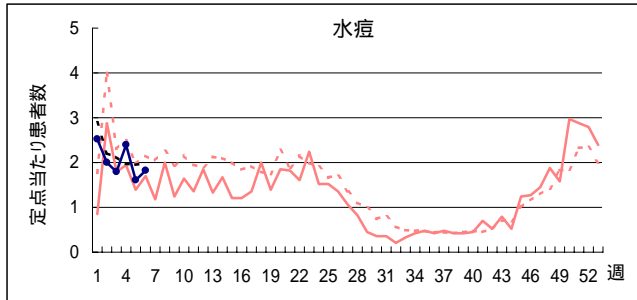
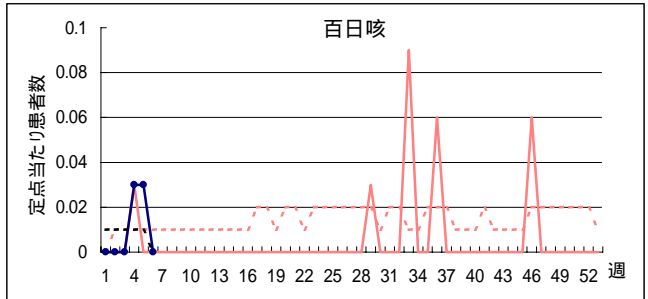
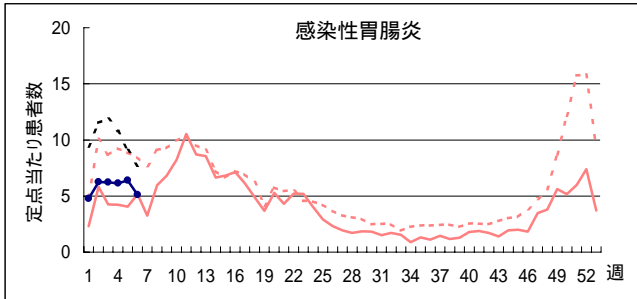
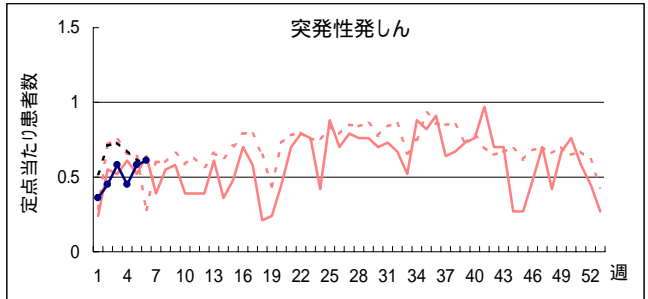
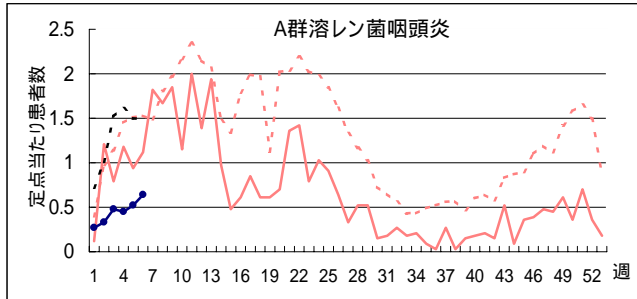
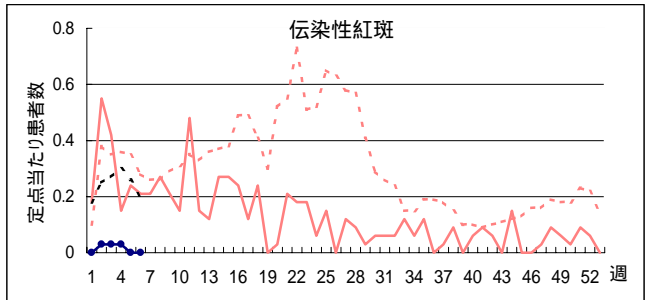
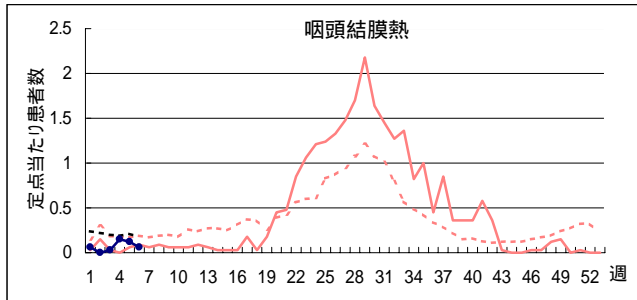
全国の発生状況についても第6週はかなりの地域に流行発生警報(定点当たり患者数30人以上)および流行発生注意報が出されています。

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**(<http://idsc.nih.gov/jp/index-j.html>)において公表されています。

疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第6週、H17.1.3～H17.2.13)



H16 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H17 { 滋賀 (solid blue line with dots)
 全国 (dotted black line)



疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第6週、H17.1.3～H17.2.13)

H16 { 滋賀 ———— 全国 }
 H17 { 滋賀 ●——● 全国 }

